

表題	農業生産構造分析のためのデータベース化と利用法	機関	農業研究センター 企画経営情報部
概要	農業センサスを活用し、農業生産構造に係るデータベース化とともに農家人口等の将来予測が可能なシステムを構築した。また、個別経営の資料収集と分析指標を整備した。これらの利用により地域計画作成等の効率化が図られる。		

研究のねらい

農業センサスを活用し農業集落や市町村、農業地域別の農業生産構造分析及び将来予測、さらに個別経営の経営実態を把握することで地域再編計画作成等で利活用できる基礎資料を整備する。

研究の成果

1. 1995年農業センサス及び主要統計資料をデータベース化

1995年農業センサスの農家調査は、農業集落を最小単位とし、旧市町村、市町村、農業地域別に表示でき、項目毎にコード番号を付すことによって、数集落、数地域での分析やデータ分析、検討が可能となる。将来予測は、2005年までの農家人口、農業就業人口、基幹的農業従事者、高齢化度が予測できる。

これらのデータベースを利活用することにより、地域の立地条件や、農業生産環境、地域資源の保全状況等の把握とともに、農業生産構造の変遷及び将来予測を含めた分析が可能となる。

2. 個別農家経営事例を本県農業計画のモデル経営類型に準じてとりまとめ、経営部門や地域、年次間での比較、検討が可能である。
3. 地図情報システムの利用は、農業センサスデータを地図化することによって、農業集落、地域等の特徴をより明確にできる。
4. 地域分析事例から：

農業センサスのデータベースを利用して施設園芸地域の分析を行い、露地栽培からハウス栽培への移行、施設園芸産地の移動や経営規模の変遷、また、人的資源との関連性等が判断できることを明らかにした。

しかし、施設園芸の栽培品目の変化までは明確にはならない。
なお、現地調査からは、地域リーダーや部会活動等が地域動向や産地形成に大きな役割を果たしていることがわかる。

普及上の留意点

1. 農業センサスのデータベースでは、農業集落の合併や境界の変更、調査区分の変更、欠調等によってデータが欠落する場合がある。
パソコン上での事前処理（記号の書き換え等による区別）やデータの解釈については十分な注意とチェックが必要である。
2. 農業センサスでは、総農家数が4戸以下の農業集落は、総農家数以外の統計項目は公表しないこととなっているため、取り扱いには十分注意する。
3. 将来予測では、各区分の数が小さい場合や特異的な変化のある時は、予測値の偏りが大きくなることもあり注意が必要である。

表1 1995年農業センサスデータベースの概要

フォルダ名	項目等 (ファイルは市町村単位)
「センサス」	県事務所をルートディレクトリとし市町村毎にファイル化
「注意事項」	公表上の注意事項
「農家数」	農家数
「農家人口」	農家人口・就業構造
「土地」	土地
「雇用」	農業雇用・請負作業等
「機械」	農業用機械
「林業」	林業
「人口予測」	農家人口、農業就業人口、基幹的農業従事者、高齢化度の予測
「熊本県計」	1995年農業センサスデータの市町村別とその合計(県計)
「索引ほか」	農業集落の索引、地域区分、その他の資料
「農村環境」	農村地域環境総合調査の旧市町村別

備考：その他のデータベースとしては、熊本農林水産統計年報、農業集落カード等を整備

表2 主な年次間比較可能な経営類型

区分	地域と年度
すいか+メロン	鹿本 (H7~8)
メロン	宇城, 菊池 (H6~8) 鹿本 (H7~8)
トマト+メロン	宇城 (H6~8) 八代 (H7~8)
いちご	宇城, 菊池 (H6~7)
なし	鹿本 (H7~8)
いぐさ	宇城 (H6~7) 八代 (H7~8)
茶	鹿本 (H7~8)
酪農	宇城 (H6~8) 菊池, 八代 (H7~8)
肥育牛	宇城, 芦北 (H6~7) 菊池 (H6~8)
メロン+水稻	阿蘇 (H7~8)
葉たばこ+水稻	天草 (H6~7)
かんきつ類	宇城 (H6~8) 鹿本 (H7~8) 芦北, 天草 (H6~7)
花き	宇城, 鹿本 (H7~8) 天草 (H6~7)

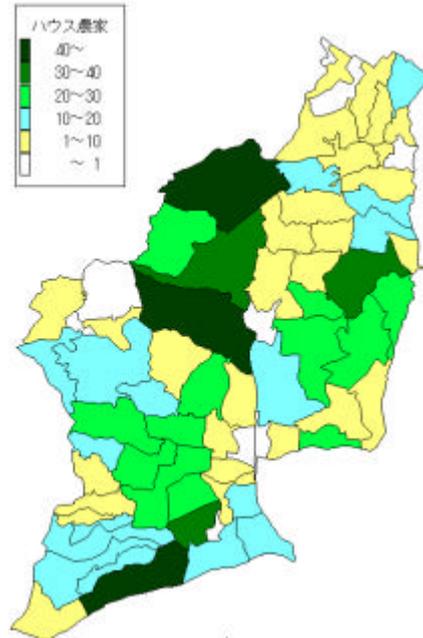


図1 センサスデータの地図化事例
(植木町の農業集落別ハウス農家数1995年)